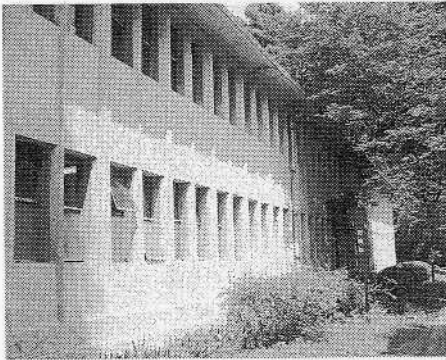


東京女子大東寮の保存要望

近代建築の保存活動などを展開しているDOCOMOMO日本支部(代表・鈴木博之東大教授)は、アントニン・レーモンド設計の東京女子大学東寮(東京都杉並区)の保存要望を同大の原田明夫理事長宛てに提出した。同支部は、東京女子大キャンパス内のレーモンドが設計した建物すべてを「DOCOMOMO Japan 100選」に選定しており、その一つ、東寮が取り壊されるとの情報から保存を要望した。レーモンドの

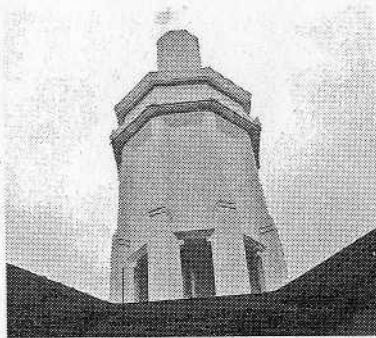
レーモンド初期の貴重な作品



東京の外観

初期の作風を伝える貴重な作品であることなどを訴えている。DOCOMOMO日本支部は、東寮の歴史的・建築的価値について2点を挙げる。1つは「アントニン・レーモンドの初期の作風をよく伝える建物である」点だ。東寮はレーモンドが日本で独自に設計活動を開始した直後に設計したもので、最

ながる翼部に食堂、集会室、その先に寮を設置した。公共性の高い空間からプライベートな空間と煙突をシンボルタワーという明快なヒエラルキーに見立て、そこで設計した。外観では、アイロン出身地の「チェコ・キュー台、洗濯室な「ビズム」を取り入れたものをこの時期の特徴と見なす。この日本人建築家には見



シンボルタワーの煙突

DOCOMOMO日本支部

写真撮影上、下：兼松紘一郎

られない。2つ目は「鉄筋コンクリートの技術に加えてレーモンドのユニークなアイデアが込められている」こと。そのアイデアは、RC造の特性を理解したうえで軽やかなデザインに昇華させている点にある。たとえば屋根スラブが設けられておらず、上階の壁が2階の床からキャンティレバーで出るといった構造になっている。同大では、同じレーモンドの設計による旧体育館の取り壊しも検討にのぼっており、同支部では時期をみて保存要望を出すことにしている。